

長野県植物研究会第 210 回及び 211 例会の報告 その 1

大塚 孝一*

第 210 回及び 211 回例会 (2015 年 9 月 5 日～6 日) は、茅野市蓼科高原で行われました。幹事：坂口竣弥・小口好久・大塚孝一。

1 日目 210 回の参加者は、東浩司、石田祐子、小口好久、大塚孝一、笠原光枝、小林正明、坂口竣弥、佐々木あや子、佐藤利幸、篠原喜運、多田景子、堤久、名取陽、早坂祥彦、藤田淳一 (以上宿泊懇親)、井浦和子、桜井智子、島野光司、千葉悟志、中山洲、中村千賀、中村泰幸 (22 名)。宿泊は、蓼科高原の「ヒュッテヴォールデン」でした。

2 日目 211 回の参加者は、東浩司、小口好久、大塚孝一、笠原光枝、小林正明、坂口竣弥、佐々木あや子、佐藤利幸、篠原喜運、島野光司、多田景子、堤久、早坂祥彦、名取陽、藤田淳一 (15 名)。

1 日目は午後 1 時に蓼科パークホテル下の横谷峡駐車場に集合し、そこから歩いて、サイクリングロード沿いを往復して植物を観察しました (写真 1)。駐車場に戻り集合写真を撮りました (写真 2)。駐車場からすぐのところにある「ヒュッテヴォールデン」はすてきなペンションで、研究会の貸し切りとなりました。夕食後は夜の勉強会となり、3 名の発表がありました。まず、名取陽氏からは、富士見町で取り組んでいるホテイアツモリソウの保護・保全活動の取り組み紹介やアフリカのナビブ砂漠を訪れた時の風景や植物とくに奇想天外と呼ばれるペルビッツアなどについてお話してくれました。つい

で、堤久氏からは、南アルプス山中に生える絶滅危惧種のヤシャイノデの保全の取り組みについて話されました。現地での保全のみならず、胞子から育て、生育域外保全に取り組まれている様子も紹介してくださいました。小林正明氏からは植物の実生のいろいろの形態についての発表をお聞きしました (写真 3)。また別に、標本を見ながらの植物談義に花が咲いていました (写真 4)。

2 日目は朝、前日と同じ駐車場で当日の参加者を加え、歩いて横谷峡を散策しました。エゾデンダやトヨグチイノデなど非常に多くの興味ある植物が出現し、良い観察ができました (写真 5,6,7)。コースの下見や宿泊場所の手配等、坂口さん、小口さんにご配慮していただき大変感謝いたします。

植物リスト等の詳細は、藤田淳一氏の報告参照 (例会報告その 2)。



写真 1 観察会の様子



写真 2 集合写真 1 日目

* 大塚 孝一 〒 380-0952 長野市宮沖 199-1

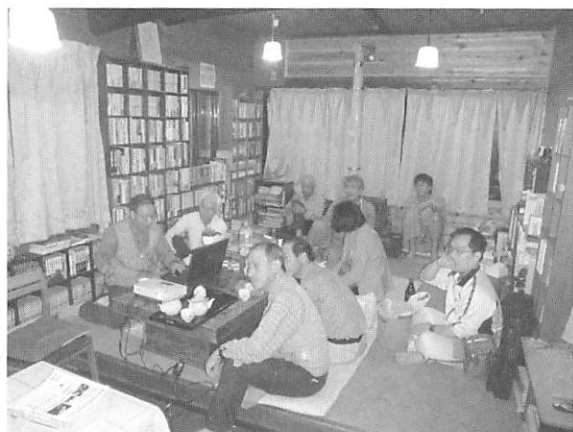


写真3 勉強会 手前、小林氏、左、名取氏、
その右、堤氏。



写真5 観察会の様子



写真4 標本勉強会



写真6 昼食風景



写真7 集合写真2日目